

第2B（中）分科会 一子どもの発達に関する課題一

提案主題 小中連携に向けての教頭の関わり

司会者	玖珠町立八幡中学校	渡 邊 寛 幸
提言者	玖珠町立日出生中学校	今 永 裕 康
助言者	玖珠町立森中学校校長	川 野 俊太郎
記録者	玖珠町立玖珠中学校	若 杉 正 明

1 協議の柱

- ・小中連携における教頭の役割

2 協議の実際

(1) 提案者より

小中連携の取り組みはどの地域、どの学校においても必要不可欠なものである。今後は有効かつ継続性のある取り組みを行っていく必要がある。本地域では具体的な取り組みとして年度当初の「校長・教頭の合同会議」「校時の統一の工夫」などの取り組みを実施した。これにより職員に管理職の「姿勢」を強く印象付けると共に「小中連携の推進」の大切さを認識させていった。

【研究の概要】小中共通の重点目標の設定

【具体的な取組】①全体運営 ②儀式～合同で実施 ③互見授業の取組 ④学力体力向上の取組
⑤文化的行事の共有 ⑥勤労作業 ⑦PTAとの連携

【成果、課題】小中連携における教頭の役割として第一に「お互いの学校の連絡調整役」をきちんと認識し、地域にあった工夫ある取り組みを進めていくことが大切である。学校の規模や地域、児童生徒の実態を十分把握しての連携もきちんと確認しておくことも必要である。そのためには、職員の意識の高揚はもちろん教頭自身が夢を語り、教頭職にやりがいを感じていかななくてはならない。

(2) 質問等（全体会）

○小中間の距離について

- ・小中間の距離はグラウンドを挟んでの距離。分校に関しては4キロ。

○合同運動会の取り組みの実際について

- ・当番性で実施。今年は小学校が音頭を取って進めていく。

3 指導助言

日出生地域においては「地域の教育力」がある。また、小中連携は「日ごろの取り組み」がしっかりしているからこそできるものである。その際教頭の役割として①交流のコーディネータ役（連絡調整）の意識を持つこと②自校の職員に目的の共有意識を持たせること③「地域の情報」「小中の情報」をもっていることが必要となってくる。もちろん相手校の職員とも連携し、地域への説明をしていくことも不可欠である。また、「現在の連携がどうなのか」「時代・ニーズに即しているか」「地域や児童生徒のためになっているのか」「教職員の人材育成につながっているのか」など常に振り返り意識を持ちながら連携を進めていくことが重要である。